

### 表記ゆれの統一について

表記	統一の方法
「位置づけ」「位置付け」	「位置付け」に統一。
「および」「及び」	「及び」に統一。
「または」「又は」	「又は」に統一。
「本市」「当市」	「本市」に統一。
「おそれ」「恐れ」	「おそれ」に統一。
「空家」「空き家」	「空家」に統一。（山県市例規に基づく）
「さらなる」「更なる」	「更なる」に統一。
「できる」「出来る」	「できる」に統一。
「わかりやすい」「分かりやすい」	「分かりやすい」に統一。
「取組」「取り組み」	名詞の場合「取組」に統一、動詞の場合は「取り組む」のように送り仮名をつける。
「ふまえ」「踏まえ」	「踏まえ」に統一。
「住民」「市民」	山県市まちづくり基本条例に基づき、「市民」に統一。ただし、法令、固有名詞を根拠とする、あるいは複合語（例、『地域住民』）として「住民」のほうが通りやすい場合は例外。
年の表記	文章内では「令和5（2023）年」の形式とする。ただし、図表内等で記号的に簡略化して示したい場合は「R5」等の表記を用いてもよいものとする。また「令和●年度決算」等の複合語的に用いられる場合は、西暦を入れると煩雑になるため、上記の様式を守る必要はない。
「人材不足」「人手不足」「労働力不足」	「担い手不足」に統一。※ただし、固有名詞、法令上の用語等は除く。
「こども」「子ども」「子供」	内閣官房副長官補付こども家庭庁設立準備室の事務連絡に基づき、特別な場合を除き平仮名表記の「こども」に統一。 ①法令に根拠がある場合（例、『子ども・子育て支援法』等） ②固有名詞（例、『子ども食堂』等）、 ③他の語との関係で「こども」表記以外を用いる場合（例、『子供期・現役期・高齢期』等） …の3つの場合を除く。 以上を踏まえ「こども」表記の使用があくまで内閣官房の「推奨」であることを鑑み、柔軟に対応。 ※上記に基づき「こどもまんなか」はひらがな表記。
「アイディア」「アイデア」	「アイデア」に統一。
「カーボンマイナスシティ」「カーボン・マイナス・シティ」	「山県市カーボン・マイナス・シティ宣言」に基づき「カーボン・マイナス・シティ」に統一。なお、「シティ」なしの「カーボンマイナス」であればナカグロは用いない。